

司法省日誌

十四

明治八年二月



日本史籍協會編

司法省日誌

明治初期各省日誌集成

十四

明治八年二月

東京大学出版会

明治初期各省日誌集成 第一期
司法省日誌十四

昭和五十九年十月三十日覆刻

編者 日本史籍協会

代表者 森谷秀亮

東京都三鷹市大沢二丁目十五番十六号

発行者 財団法人 東京大学出版会

代表者 田中英夫

一三三 東京都文京区本郷七丁目三番一号
振替東京六一五九九六四

電話(八一)八八一四

印刷・株式会社 平文社

本文用紙・王子製紙株式会社

クロス・望月株式会社

製函・株式会社 光陽紙器製作所

製本・矢嶋製本株式会社

39140

ISBN4-13-093914-9

日本史籍協会編

司法省日誌

全二〇卷

A 5 判

平均四六〇頁

各価六〇〇〇円

明治初期各省日誌集成第一期

卷	年	代	刊行月	卷	年	代	刊行月
1	明治六年一・二月	58年	9月	11	明治七年二月	59年	7月
2	明治六年七・八月		10月	12	明治七年三月		8月
3	明治六年八・九月		11月	13	明治七年索引		9月
4	明治七年一月		12月	14	明治八年一月		10月
5	明治七年二月	59年	1月	15	明治八年二・三月		11月
6	明治七年三・四月		2月	16	明治八年四・九月		12月
7	明治七年五月		3月	17	明治八年一〇・三月	60年	1月
8	明治七年六月		4月	18	明治九年一・二月		2月
9	明治七年七・八月		5月	19	明治九年三月		3月
10	明治七年九・一〇月		6月	20	明治九年四・五月		4月

司法省日誌

十四

目次

明治八年一月

第一號	(一月一日)	一
第二號	(一月七日)	二
第三號	(一月八日)	四
第四號	(一月九日)	六
第五號	(一月九日)	八
第六號	(一月十日)	一〇
第七號	(一月十四日)	一二
第八號	(一月十五日)	一四
第九號	(一月十七日)	一六
第十號	(一月十七日)	一八
第十一號	(一月十八日)	二〇
第十二號	(一月二十日)	二二
第十三號	(一月二十三日)	二四
第十四號	(一月二十五日)	二六
第十五號	(一月二十七日)	二八
第十六號	(一月二十八日)	三〇
第十七號	(一月三十一日)	三二

司法省日誌明治八年第壹號

○一月一日

午前第十時判任官以下參賀

○一月四日

政始ニ付午前第九時省員一同出省ス但シ酒饌ヲ賜ハル

○

中解部岡田直臣足柄縣中雇ニ轉任ス

○一月五日

新年宴會ニ付午前第十一時奏任官以下ニ酺宴ヲ賜ハル

○一月七日

〔筑摩縣伺〕

七年十一月十二日

明治六年第二百四十七號御布告訴答文例中第二章第三
四條原被ノ訴狀及答書ハ撰ミテ受タル代言人必ス代書
スヘキノ處無筆ニシテ書スル能ハス又ハ臨時差間ヲ以
テ他ニ代書ヲ頼ミ自ラ筆記セシ体ヲ以テ名判シ訴狀差
出候者

本年第六十一號月俸規則中第十六條但書病氣引ノ者十
五日ニ至リ醫案ヲ副ヘ届ケ猶ホ在苐數月ニ暨フキハ六
十日更ニ其病狀ヲ届出ヘキニ其期ヲ失スル者

右等ノ規則ニ違悖スルハ違令輕重ニ間擬シ處分可然
ニ相考候ヘ共本年七月七日附ヲ以テ戶籍規則ニ違フ者
處置方何ニ違式輕キニ間ヒ贖ヲ聽スヘク御示令有之右
權衡ヲ以テ相考候ヘハ違令ニ處分候テハ苛嚴ニ涉リ決
兼候ニ付相伺候也

指 令

第一條 代書人ハ原被告人ノ撰ム處ニ係ルヲ以テ其者
無筆ナルトキハ再ヒ精選シテ之ニ代ラシム可シ又臨
時差支ヲ以テ他ニ代書ヲ托スルカ如キハ止ムヲ得サ
ルニ出ツ故ニ兩ナカラ罰ヲ議スルニ及ハス

第二條 病氣引ノ者月俸規則ニ違ヒ十五日及ヒ六十日

毎ノ届方ヲ懈ル者ハ違式輕ニ問ヒ贖ヲ聽ス可シ

〔白川縣伺〕七年九月七日

明治六年七月十日以後ニ停ル貸金ニ年號月日ノ内畧記シタル證書取置期限ニ至リ返金不埒ノ譯ヲ以テ公裁ヲ仰ン爲メ其負債主ニ掛合ナク欠漏ノ月日自ラ記入レ以テ出訴ニ及フ者アリ右ハ當初證書授受ノ月日ニ違フコト無ケレハ事ニ妨碍ナク止タ呵責シテ放免可然哉ニ候得共證書ハ負債主ニ於キ關係大ナルモノ債主タリトモ之ヲ擅ニ記入スルノ權ハ無之甚タ不都合ノ事ニ付違式輕ニ問ヒ懲役十日贖ヲ聽シ如何可有之哉

前同斷畧記シタル證書取置約定ノ期滿チ返金不埒ノ

ヨリ已ニ出訴ノ日ニ臨ミ初テ其儀ニ心付負債主ノ方
到リ其記入ヲ乞フニ負債主之ヲ肯ンセス遂ニ債主ヨリ
糾明ノ事ヲ出願セリ因テ負債主ノ手前及糾問タル處年
月日ノ内畧記アレハ民法ノ裁判ニ採用ナキヲ慮リ故サ
ラニ畧シテ其裁判ヲ規避シ爾後債主ヨリ記入ノ乞ヒニ
應セサルモ亦其前意ヲ遂ンヲ欲ナリ然レモ其證書
ニハ實印ヲ捺シテ只月日ヲ欠ケルノミ其裁判ヲ規避ス
トハ該犯ノ意期後數月ヲ遷延シ手元金調ノ都合ニ應シ
返償セントノ豫策ニテ素ヨリ詐取スルノ意ハ毫モ無之
因テ不應爲ニ間ヒ輕重ヲ分チ借ル處ノ金ハ仍ホ民法ノ
規則ニ照シ返償セシメ如何可有之哉

前同斷及糾問タル處尙初證書授受ノキハ全ク無心ニテ
 月日ノ内ヲ脫漏シ追テ債主ヨリ記入ノ掛合ヲ受ケ候節
 ハ早ヤ返金ノ滿期ニテ金策不調等ヨリ一時其乞ニ應セ
 サル者ナリ是亦爲スヲ得ヘカラサルノコナルヲ以テ不
 應爲輕ニ問ヒ懲役三十日其當初無心ニ出ツルヲ以テ贖
 ナ聽シ如何可有之哉 但本文掛合ヲ受タルニ只些少ノ
 手數ヲ厭ヒ一時其乞ニ應セサル者ハ情狀左ノミ可憎儀
 ニ無之候ニ付呵責ニ止メ如何可有之哉奉伺候也

指令

第一條 債主ニ於テ負債主ニ掛合ナク自ラ年月日ヲ記
 入シタル證書ハ仍ホ裁判上證據ニ不相立儀ニ付出ハ

ニ及フト雖モ受理セサルニ止ル斷獄ノ處分ニ及フヘ
カラス

第二三條 負債者畧記シタル年月日記入ヲ肯ンセサル
ニ付債主ヨリ訴出ル時ハ之ヲ記入スヘキ旨ヲ申渡シ
記入ノ上ハ探上ケ裁判スヘシ斷獄ノ處分ニ及フヘカ
ラス

〔大坂府伺〕
七年十一月十七日

佐賀縣貫屬士族高楊應貫外三人儀當府ヘ分配相成候同
縣第八大區一小區中ノ橋石住居高楊應優外十七人ヘ面
會ノ儀願出候間當地裁判所ヘ及問合候處尋常ノ懲役人
ニモ無之本省ヨリ出張處斷相成候儀ニ付取計振一應可

相伺旨回報有之其段應貫外三人へ相達候處親族懲役人
分配ノ各府縣へ至急願度儀有之趣ニテ右願書下ケ渡ノ
儀申出此度ハ相濟候へ共以來右同様出願ノ節伺テ遂候
様ニテハ日數モ相掛願人共迷惑ノ次第ニモ可有之就テ
ハ其情由篤ト相糾情願不得止ニ於テハ面會差許候テモ
差聞無之哉此段相伺候也

指令

懲役人其親戚ヨリ面會ヲ請フトキハ篤ト其事由ヲ聞糾
止ムヲ得サルニ於テハ差許可然事 但面會ノ節ハ懲
役場掛リノ吏員二名以上附添餘談ヲ戒ム可シ

〔愛知縣伺〕

七年十一月十八日

證券印紙貼用ノ儀地所建家其他公債証書等讓與証書ハ
第一類賣渡証文ハ第二類印紙貼用可致御定規ニ有之候
右讓與トハ無代價ノ者ニテ縱令証書中讓與ノ文字有之
候共多少代價取極有之分ハ素ヨリ賣渡ニ付第二類印紙
貼用爲致候テ可然哉

借用金証文第二類印紙貼用有之右証文期月ニ返濟遲滯
ニ及ヒ更ニ返濟延期ヲ約スル証文ハ金錢約定証文ニ付
縱令其約十數度ニ及フモ一々第二類印紙貼用爲致候テ
可然哉

第二類印紙貼用ノ証文ヲ引當ニ致シ添証文ヲ以テ金穀
借用致シ候節右添証文ハ借用金証文ニ付縱令引當ノ證

文ニ第二類印紙貼用有之候トモ更ニ第二類印紙貼用爲致候ヲ可然哉右相伺候也

指令

三條トモ伺ノ通

〔東京府伺〕

七年十一月廿二日

懲役人ノ中平常身體衰弱ニ有之候處ヨリ領置ノ衣類等親戚ヘ引渡他府縣ノ者ハ府下懇意ノ者ヲ指シ同様ニテ兼養ノ爲メ牛雞肉類好味ノ品ヲ買需差入願出候節ハ醫診察ノ上滋養可然見込ニ於テハ聞届不苦哉懲役場掛ヨリ申出候間宜ク御指揮有之度此段相伺候也

指令

醫師診察ノ上滋養可然見込ニ候ハ、差許不苦候事

〔同府伺〕七年十一月三十日

懲役中ノ者處刑ノ際裁判所ヨリ本人所持金引渡領置ノ
内ヲ以テ新律綱領并改定律例買入渡方願出候ニ付聞届
可然哉其掛ヨリ申出候間此段相伺候也

指令

伺ノ通

〔同府伺〕七年十一月十七日

過ル九月中父兄等ヨリ其子弟ノ不良ナル者懲責ノ爲メ
徒場入願出候ハ、情實取糾警視廳へ照知ノ上當府ニ於
テ監獄則第十條ニ照シ處分可致旨御達ニ付テハ右十條

中平民其子弟ノ不良ヲ憂ル者云々ト有之士族ニテ願出候共同様ノ取扱致シ可然儀ニ候哉此段相伺候也

指令

自宅ニ於テ懲戒致シ難キ者ハ平民同様取扱可然候事

〔茨城裁判所伺〕
七年十二月九日

本年太政官第八十一號御布告證券印紙規則改正第五則第十二條ニ前條ニ掲クル證書ヲ以テ公裁ヲ仰カント欲スル節ハ請取主ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用シ調印濟ノ上ハ取揚裁判可致ト有之右ハ第十一條規則ノ通過料金差出候後ノ者ニ限り候歟又ハ未タ處罰ヲ不經ト雖モ證書請取主ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用調印ノ上訴出候節ハ取